



## 4. アプリスキルモードの利用方法を確認しましょう

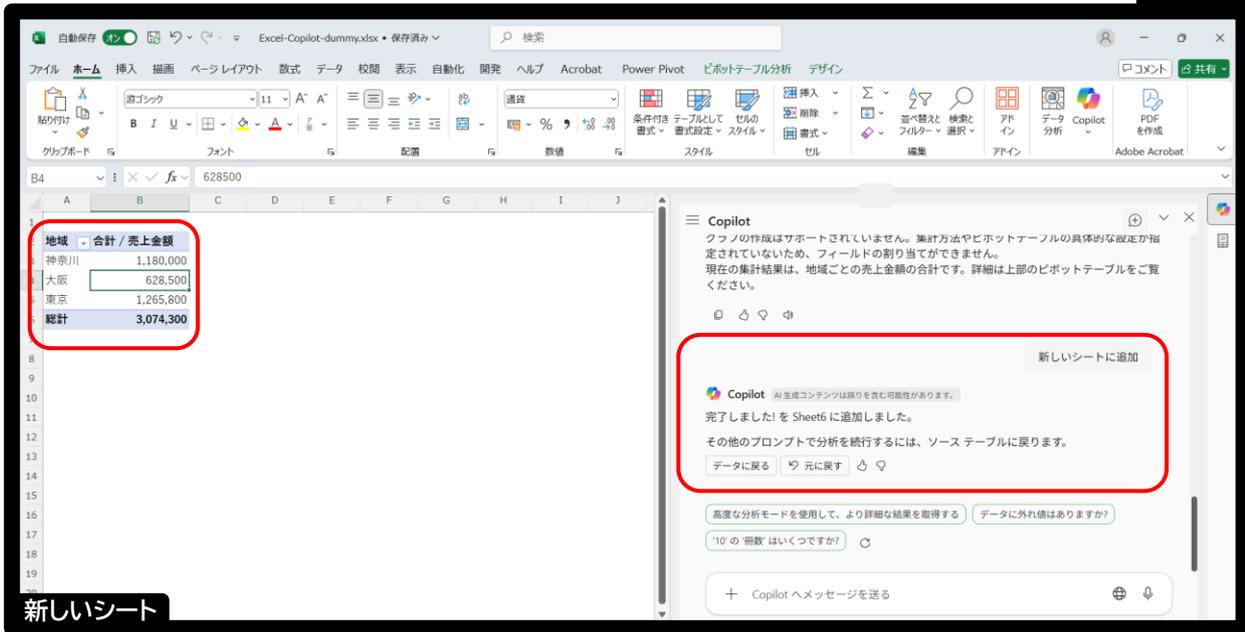
シート:書籍販売-3

### 学習内容

アプリスキルモードを利用して、数式列の追加やピボットテーブルを作成します。  
用意されたテンプレートを把握することで、効率的にプロンプトを入力できます。

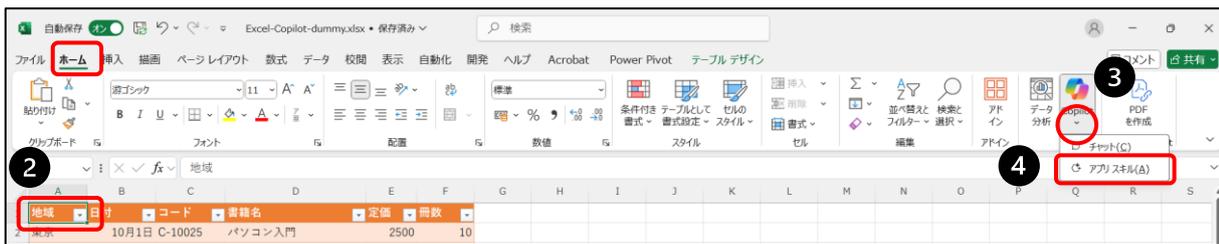
アプリスキルモードを利用すると、実際にワークシート上で Copilot が処理を実行します。

完成例



操作 : アプリスキルモードを利用して、Copilot が提案した数式列を追加しましょう。

- Excel ファイル「Excel-Copilot-dummy.xlsx」の「書籍販売-3」シートを開きます。
- テーブル内のセルをアクティブセルにします。
- 「ホーム」タブ→「Copilot」ボタンの下部に表示されている **V** をクリックします。
- 「アプリスキル」を選択します。



- テンプレートの一覧が表示されます。

テンプレートを使用すると効率的にプロンプトを入力できます。  
表示されているテンプレートをクリックすると、「Copilot ヘッメッセージを送る」のボックスにプロンプトが挿入されます。

### One Point プロンプトのテンプレート

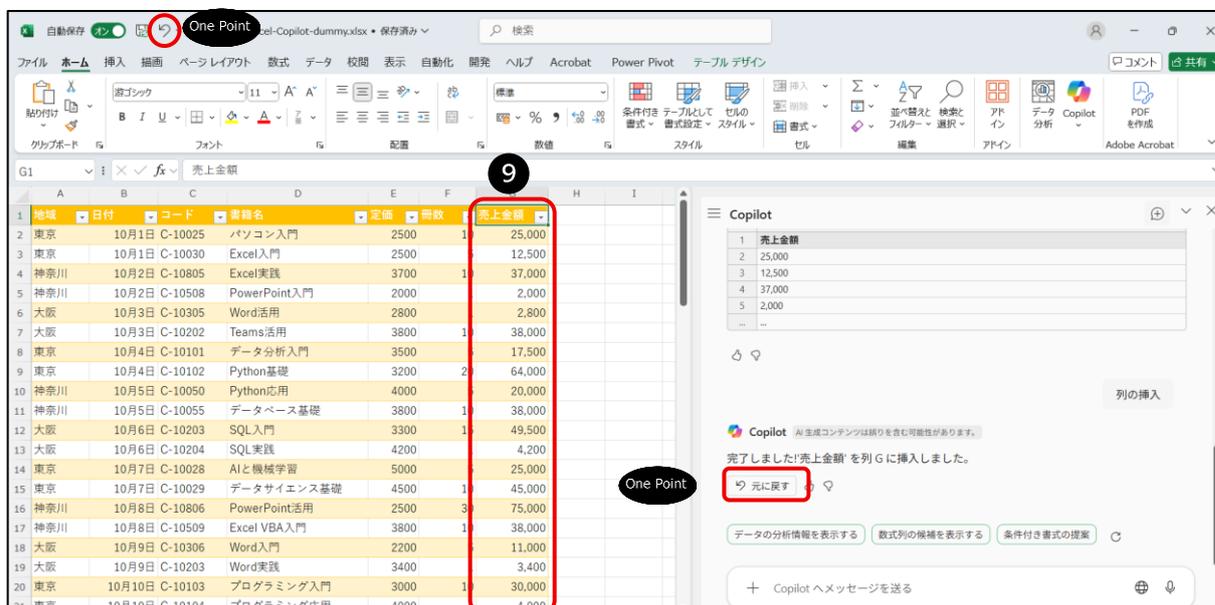
プロンプトのテンプレートに緑の文字が表示されている場合は、クリックするとそのプロンプトが一度ボックスに挿入され、内容を編集してから送信できます。  
緑の文字が表示されていない場合は、編集せずにそのまま送信されます。



- ⑥ テンプレートの「数式列を提案する」をクリックしてボックスに挿入します。  
 ※テンプレートに表示されていない場合は、『数式列を提案する』とボックスに入力して [送信] ボタンをクリックします。
- ⑦ プロンプトが自動的に送信され、現在表示されているテーブル範囲が認識されます。その内容をもとに、数式に適した列が提案されます。
- ⑧ 内容を確認したうえで [列の挿入] ボタンをクリックします。



- ⑨ 自動的に「売上金額」フィールドを追加できました。



### One Point 【元に戻す】ボタン

Copilot の提案に従ってデータを変更した場合でも、直前の操作であれば元に戻すことができます。Excel のクイックアクセスツールバーに表示される【元に戻す】ボタン、または Copilot ウィンドウに表示される【元に戻す】ボタンを使用して元に戻すことができます。

操作：アプリスキルモードを利用して、ピボットテーブルを使用して集計しましょう。

- ⑩ テーブル内のセルをアクティブセルにします。
- ⑪ Copilot ウィンドウ内で上方向にスクロールし、テンプレートを表示します。

テンプレートの「ピボットテーブルまたはグラフを使用して集計する」をクリックしてボックスに挿入します。

※テンプレートに表示されていない場合は、『ピボットテーブルまたはグラフを使用して集計する』と入力して [送信] ボタンをクリックします。

- ⑫ プロンプトが自動的に送信され、現在表示されているテーブル範囲が認識されます。その内容をもとに、ピボットテーブルが提案されます。
- ⑬ 内容を確認したうえで、[新しいシートに追加] ボタンをクリックします。  
※生成される内容はその都度異なります。



- ⑭ 新しいシートが追加され、ピボットテーブルを作成できました。(P.58 完成例参照)